

## 第 17 回子ども・子育て会議の意見一覧表

## 保育料の見直しについて

幼稚園と保育所の保育料の不均衡については、幼稚園の保育料は利用者にとって少ない額になっている事実は、世帯収入により、あてはまらない場合もあるようだ。

保育所の保育料（所得に応じる）と幼稚園の保育料（各園で一律）の考え方の違い、保育時間にも差がある中で、何を基に比較し公平とするのかは難しいと思う。

保育料以外に通園に必要な費用は考慮しないとのことだが、利用者は通園に必要な費用は全て家計の負担となるのではないか。

他市町村の割合がどうなっているのかを事前調査する必要がある。

保育所、幼稚園の預かる時間の長さやサービス内容が保護者の預ける目的の違いもあり、多少保育所の方の保育料が割高になるのは、致し方ないことだと思う。

葉山町の負担をどの程度受け入れられるのか、大きな問題だと思  
う。

比較したい場合、比較できる資料で統一しないと誤解が生じやすい  
のではないか。資料3 - 2はミスリードする内容が多すぎると感じ  
た。

保育に町としてどれだけ予算が投入できるか分からないが、階層  
6、7の部分が、7、8の部分でマイナス化できれば、多くの町民・  
他市町の方が、住みたい町にあげるのではないだろうかと思う。

会議時間が少ない中、他市町とあまり差のない保育短時間の見直し  
はターゲットから外して良いと考える。

保育認定の標準時間と保育短時間の保育料の見直しについては、妥  
当なところだと考える。

所得階層の細分化は、所得の低い世帯にとっては、1千円単位でも  
細分化して欲しいと願うところだと思う。町がどの程度までの細分化  
ができるかだと思う。

所得に恵まれている世帯には、ある程度の負担をいただくことも必要かと思う。同じ子どもなのに格差をつける必要はないという議論が出た市町村もあるようで、どの市町村もゆとりの運営ができるわけではないので、割り切りは必要かと思う。

保育料の見直しは、保育所が増えたことや補助金増額などに伴う、経費増があり仕方ない考える。

保育標準時間と短時間の保育料の説明を受け、賛否を答えることは、委員として負担が大きいと感じた。

保育料滞納額の対応策など、他の収入増の方法を示してほしい。

## 資料について

資料1の子どもの人口の推移は、過去7年は増加しているのに対し、平成29年以降は3年間は、減少しているので再考する必要もあるかもしれない。

資料1の子どもの人口推移の資料1は、一定の法則性を踏まえておらず、やや信頼を欠くものである。

資料は、数字の取り方で解釈や理解に差が出るので、自然増でない金額などの増減には背景を示したほうが良い。